

ごあいさつ

大正12年（1923）9月1日午前11時58分、マグニチュード7.9の断層地震が発生し、関東地方の広い範囲で建造物の倒壊、地割れ、山崩れ等の破壊現象が発生しました。地震発生が昼時であったことから、各所で発生した火災が倒壊家屋等に延焼し、大火災による二次的被害により犠牲者は激増、10万5千人を超える尊い命が失われました。

とりわけ甚大な被害の出た東京では、緊急の救護活動に続いて、国・東京市・東京府の連携による復興事業が実施に移され、幹線道路の整備、区画整理事業、不燃化を目指した鉄筋コンクリート建ての学校整備等が進められました。

今回のパネル展では、主に当時の東京市が編集刊行した関東大震災と復興事業に関する刊行物の中から、震災被害の実態と復興事業の諸相を明らかにしていきます。

首都東京を襲う大規模地震の発生が現実的な危機として存在する中、過去の災害記録から学び、震災に強い都市、震災に強い社会を作るための努力が欠かせません。本展示を通して、改めて自然災害の恐ろしさと防災対策の重要性について考える機会としていただければ幸いです。

令和5年11月

東京都公文書館
公益財団法人特別区協議会